

「よむこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第1学年「うみの かくれんぼ」

② 単元のねらい

1文目で生き物と居場所が示され、2文目で体の特徴を、3文目で隠れ方を示している文型に留意しながら読み、重要な語や文を正確に選び出すことや順序などを考えながら内容を捉えて読むことができる。

③ 指導の工夫

第1・2次では、教師がICTを活用して教科書の写真と文章、文章の内容と動画を順番に提示していくことで、内容把握の一助とした。第3次で、自分が選んだ「海の生き物」の答えの部分を見つげるために、ロイロノートで資料を提示し、ロイロノート上で学んだ文型に沿って、傍線で色分けさせることで、文型を確かめながら、表現していく方法をとった。

④ 活用したツール

・教科書の写真と動画 ・ロイロノートで配布した海の生き物の資料

⑤ 実践内容

5 本時について

(1) 本時の目標 文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、事柄の順序を捉えながら読む活動を通して、自分の選んだ生き物についてのキーワードに気づき、読み取ったことを「かくれんぼカード」に書くことができる。

(2) 本時の展開 (7/8)

過程	学習活動	指導★援助
つかむ(5)	1 前時、自分が選んだ生き物を確認する。	○机の上には、クロームブック(ロイロノート)と「かくれんぼカード」を用意する。 ★前時に自分が選んだ生き物をロイロノートで確認し、その情報をもとに「かくれんぼカード」を完成させるという見通しをもたせる。 ○「かくれんぼカード」には、教科書の文章と対応させて、かくれる ばしょ 「～に」、からだの とくちょう 「～が…」、かくれかた「～かくれています」を書くことを確認する。 ★「かくれんぼカード」の例として×や△の文章を見せることで、文章の中の重要な語や文について考えさせ、よりよい文章に直す練習をする。 ○前時に線を引いたロイロノートの資料を活用する。 ★早く書けてしまった児童は、2つ目3つ目の「かくれんぼカード」にチャレンジする。 ★「かくれんぼカード」で足りない情報がある児童には、「かくれる ばしょは?」「どうやって かくれるの?」と問いかけ、情報を引き出す。 ★3つの内容について読み取ったことを「自分なりの表現(くわしく・分かりやすく・工夫して)」で書いている児童を指名する。
	2 本時の課題を確認する。 えらんだ いきものの 「かくれんぼカード」を かんせい させよう。	
	3 教師の書いた「かくれんぼカード」の例から、文章の中の重要な語や文が使っているか、事柄の順序が正しいかを考える。 ①チンアナゴが、おおきな さかなから かくれて います。× チンアナゴが、 <u>すなの なかに</u> かくれて います。○ (かくれる ばしょ) ②チンアナゴは、 <u>からだ が ぐねぐね</u> しています。△ チンアナゴは、 <u>おしりの さきが かたくて、 とがって</u> います。(からだの とくちょう) ③おしりの さきで かくれます。△ おしりの さきで <u>あなを ほって</u> かくれます。○ (かくれかた) おしりの さきで、 <u>すなを ほりながら、 からだを ぐねぐねさせて</u> かくれます。◎	
深める(15)	4 自分が選んだ生き物の「かくれんぼカード」を書く。	評価規準【思考・判断・表現】 文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、事柄の順序を捉えながら読む活動を通して、自分の選んだ生き物について、読み取ったことを「かくれんぼカード」に書いている。
	5 ペアで「かくれんぼカード」を読み合い、(かくれる ばしょ)(からだの とくちょう)(かくれかた)の3つの内容が順番通り書けているか確認する。	
	6 仲間の「かくれんぼカード」を紹介し、良さをみつける。	
	7 自分の「かくれんぼカード」を読み直し、よりよい表現を考える。	
	8 学習を振り返る。「かくれんぼカード」を書くことができたか確認する。	
確める(5)	9 次時は、「かくれんぼカード」を使って、クイズ大会をすることを確認する。	

ロイロノートを使って、自分で選んだ「海の生き物」の資料中のキーワードに線を引き、それを元に「かくれんぼカード」に記入した。

⑥ 成果と課題 (実践するときの留意点など)

○第3次で自分の好きな「海の生き物」の資料をロイロノートの資料箱から選べるようにしたことで、主体的に学習に取り組むことができた。

△資料を作成するにあたって、教師の準備に大幅な時間がかかった。